



...for patient comfort.

第32期 中間報告書

平成23年4月1日 ～ 平成23年9月30日

JL Japan Lifeline

証券コード：7575

Financial Highlights

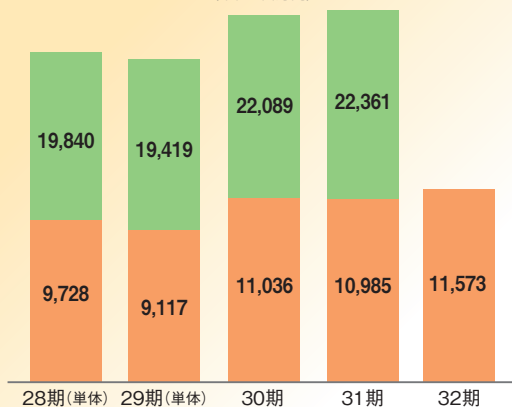
主要連結財務データ

※第30期より連結損益計算書を作成しております。

■第2四半期累計 ■通期

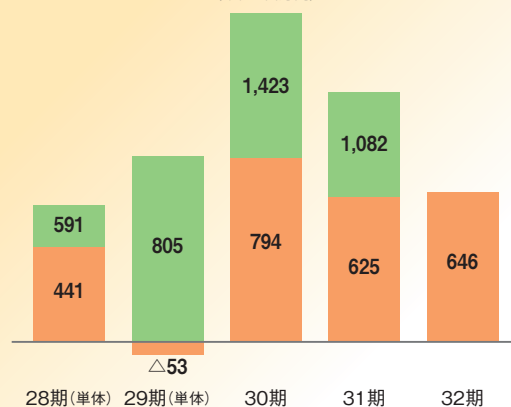
売上高

(単位：百万円)



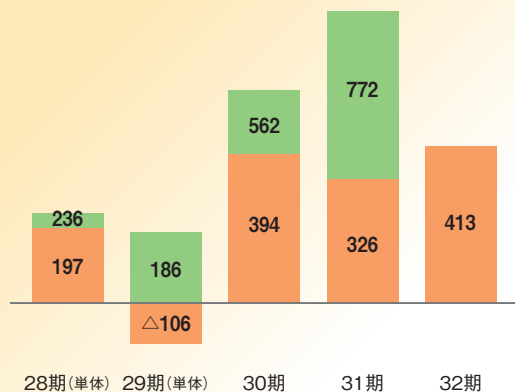
経常利益

(単位：百万円)



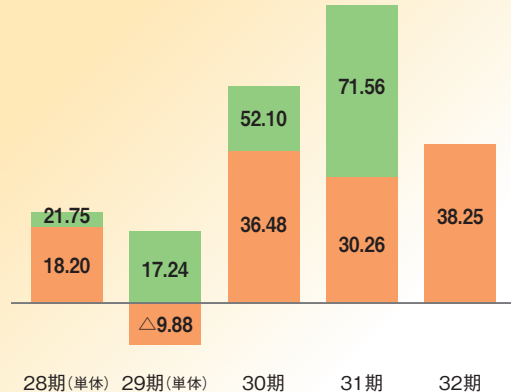
四半期(当期)純利益

(単位：百万円)



1株当たり四半期(当期)純利益

(単位：円)



Q－上半期の業績を振り返っていかがでしょうか？

A 当上半期の業績といたしましては、主力商品である心臓ペースメーカーが伸長したほか、自社製品のEPカテーテルや人工血管の販売が好調であったことから、売上高は前年同期に比べ5.3%増加し、115億7千3百万円となりました。

利益面におきましては、昨年4月に行われた保険償還価格の引き下げ以前に仕入れた原価の高い商品在庫が減少していることや、収益性の高い商品へのシフトが進んだ結果、売上総利益率は前年同期に比べ3.2ポイント改善いたしました。

また、上半期の経費予算の一部が未執行であったことから、当初の見通しに比べて販売費及び一般管理費が減少したことにより、営業利益は6億6千2百万円、経常利益は6億4千6百万円となりました。

さらに、AGA Medical社の買収により同社商品の取り扱いが終了となることに伴い、薬事承認権の譲渡による特別利益を2億4千4百万円計上し、四半期純利益は4億1千3百万円となりました。

Q－品目毎の販売状況はいかがでしょう？

A リズムデバイスにおきましては、心臓ペースメーカーの販売数量が前年同期に比べ伸長いたしました。また、本年2月に販売を開始したCRT-D「PARADYM CRT-D」



代表取締役社長 鈴木 啓介

につきましては、市場導入の進捗が当初予定に比べ遅れておりますことから、拡販に努めております。ペースメーカーでは、自社ブランド「J-Line」シリーズへの切り替えが順調に進んでおります。同商品は従来品に比べ収益性が高く、利益面でも貢献しております。

自社製品を扱うEP／アブレーションにおきましては、不整脈治療用のアブレーションカテーテルが競合製品の影響を受け、販売数量が前年同期に比べ減少しておりますものの、診断用のEPカテーテルは順調に販売数量を伸ばしており、EP／アブレーション全体の売上高としては、引き続き前年同期を上回り推移いたしました。

外科関連では、人工血管において、昨年2月に稼働を



開始した当社子会社であるJUNKEN MEDICAL社の市原工場での生産体制が確立し、市場ニーズに対応した供給量が確保されたことから、拡販に注力した結果、販売数量が増加いたしました。その一方で人工心臓弁は、当社が取り扱う機械弁から生体弁へと治療方法が移行していることを受け、販売数量が減少いたしました。なお、当社におきましても、生体弁の導入に向けた準備を進めております。さらに、第4四半期には人工弁輪「MEMO 3D」の発売を予定しております。人工弁輪を用いた治療方法は、機械弁や生体弁に置き換えることなく、自己の弁を残したまま治療を行えることから、市場は生体弁と同様に増加傾向にあります。

インターベンション分野におきましては、バルーンカテーテルの新商品が一昨年の発売以来好調を続けており、新たにハイプレッシャータイプの商品をラインナップに追加したことを受け、シェアが増加傾向にあります。

Q－メーカー機能の強化について教えてください。

A 現在当社では、ガイドワイヤーをはじめとして、EPカテーテルやアブレーションカテーテルを、また子会社では人工血管や血液浄化関連製品を製造しております。最初の自社製品であるガイドワイヤーの開発開始から既に10年以上が経過し、当社の収益基盤の一つとなっております。

こうした中、製造および研究開発の中核拠点として埼玉県戸田市に建設中の、「Medical Technology Park（メディカル・テクノロジー・パーク）」の稼働を来年春に予定しているほか、平成25年春には、栃木県小山市に、国内外の協力工場からの委託加工品の受入、包装、滅菌および最終の品質検査を行う新たな工場の建設を予定しております。

このように当社が近年、メーカー機能を拡充している目的としては次の3点が挙げられます。まず、自社製品の売上構成比率を一定割合で確保することにより、仕入先のM&Aなどによる商品の販売権を喪失するリスクを回避し、



人工弁輪「MEMO 3D」

経営の安定化を図る狙いがあります。

次に、保険償還価格が継続的に引き下げられている状況下において、原価低減などの自助努力により利益を確保することが挙げられます。

最後に、高齢化の進展等により国内の循環器の医療機器市場は今後も拡大が予想されますが、長期的には人口減少による市場の縮小や、保険償還価格の引き下げに伴う市場の伸び悩みが想定される中で、自社製品に関しては、国内市場にとどまらず、海外市場への展開が可能である点が挙げられます。

当社の持つ30年におよぶ心臓循環器領域での経験を活かして、商社機能とメーカー機能のそれぞれを拡充することにより、患者様や医療現場に対し、より価値ある医療機器を提供することが可能になると考えております。

Q 通期の業績見込みはいかがでしょうか？

A 下半期におきましても、主力商品である心臓ペースメーカーや自社製品を中心に引き続き堅調な販売が予想されますことから、売上高は概ね当初の予想どおりに推移するものと考えております。

また、利益面におきましても、上半期に末執行であった経費予算の支出が下半期には見込まれることから、現時点では、本年4月28日に開示いたしました業績予想の変更は行っておりません。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

Topics

新工場 施設名称決定

「Medical Technology Park」

(メディカル・テクノロジー・パーク)

当社ではグループの中核拠点として、安定した製品供給体制の構築および研究開発体制のさらなる充実を目的として、埼玉県戸田市に新工場の建設を進めております。本年3月11日に発生した東日本大震災の影響により工事の進捗に遅れが出ておりましたものの、年内の竣工に向け、工事は最終段階を迎えております。

最新の医療技術に関する研究開発を活発に行い、医療に貢献する優れた製品を広く行き渡らせることを目指すとともに、戸田公園という地名にちなみ、施設の名称を「Medical Technology Park (メディカル・テクノロジー・パーク)」と名付けました。

なお、稼働開始は平成24年春を予定しております。



【Medical Technology Park概要】

所在地：埼玉県戸田市

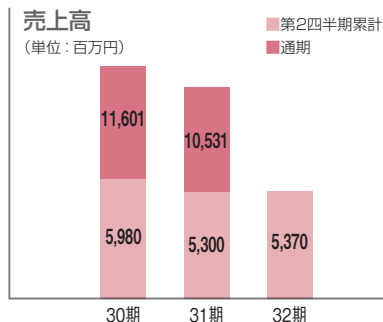
敷地面積：2,903.80㎡

延床面積：5,882.89㎡

リズムデバイス

主要取扱品目

- 心臓ペースメーカ
- ICD(植込み型除細動器)
- CRT-D(除細動機能付き両心室ペースメーカ)
- ホルター心電計



心臓ペースメーカにおきましては、「REPLY(リプライ)」の拡販により、販売数量は前年同期に比べ4.5%増加いたしました。また、ペースメーカリードにおきましては、従来の取扱商品から、自社ブランド品で収益力の高い「J-Line(ジェイ・ライン)」シリーズへの切り替えが進んでおります。ICD関連におきましては、市場は拡大傾向にあるものの、企業間競争が激しさを増していることから、新商品「PARADYM(パラダイム) CRT-D」の市場導入の進捗が当初見込みに比べ遅れております。

以上の結果、リズムデバイスの売上高は53億7千万円(前年同期比1.3%増)となりました。

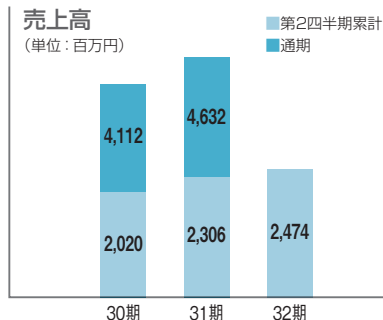


心臓ペースメーカ

EP/アブレーション

主要取扱品目

- EP(電気生理用)カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 高周波発生装置

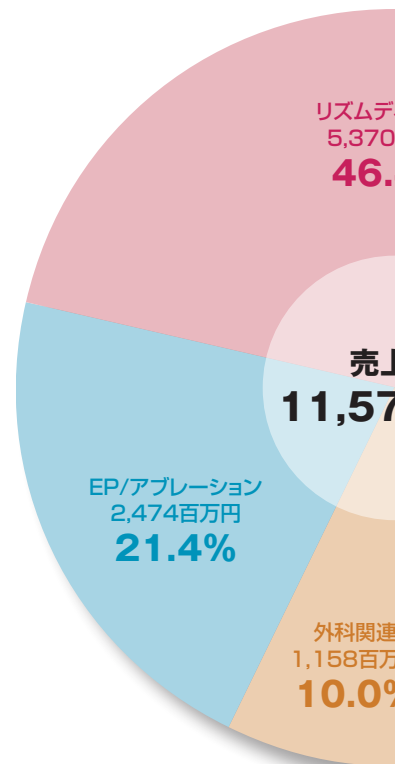


EPカテーテルにおきましては、心房細動のアブレーション治療の増加を背景として、「EPstar Libero(EPスター リベロ)」を中心に好調に推移し、売上高は前年同期比19.3%の増加となりました。また、アブレーションカテーテルにおきましては、競合製品の影響により、売上高は前年同期比9.2%の減少となりました。

以上の結果、EP/アブレーションの売上高は24億7千4百万円(前年同期比7.3%増)となりました。



EP(電気生理用)カテーテル

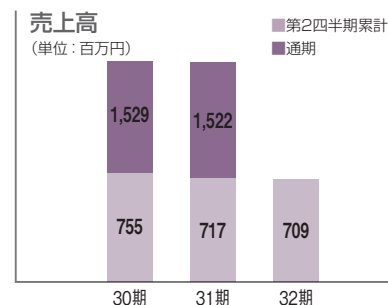
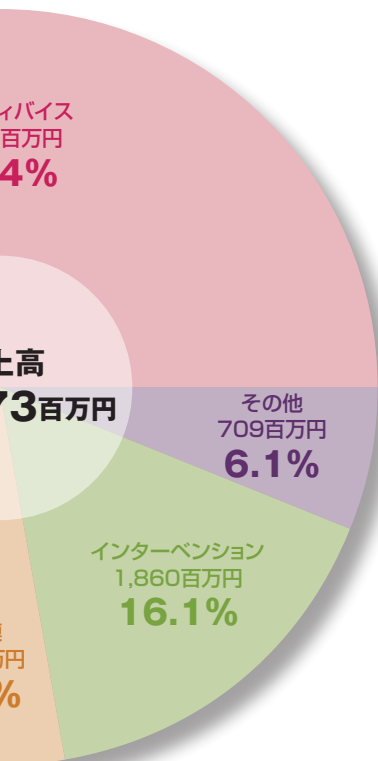


その他

主要取扱品目

- 血液浄化関連商品

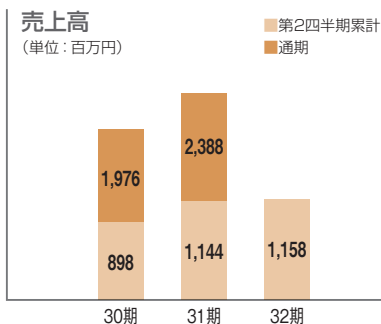
連結子会社において販売している血液浄化関連商品等の販売数量が減少し、その他の売上高は7億9百万円(前年同期比1.0%減)となりました。



外科関連

主要取扱品目

- 人工血管
- 人工心臓弁
- 人工弁付き血管
- 人工肺



人工血管におきましては、新工場の稼働により自社グループ製品「J Graft(ジェイ・グラフト)」の安定的な生産体制が確立したことから、売上高は前年同期比20.7%の増加となりました。人工心臓弁におきましては、生体弁の耐久性向上等により生体弁市場が伸長し、当社が取り扱っております機械弁市場が減少傾向にあることから、売上高は前年同期比16.5%の減少となりました。

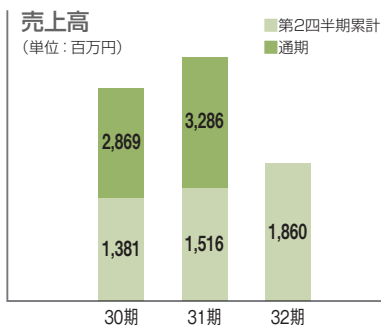
以上の結果、外科関連の売上高は11億5千8百万円(前年同期比1.2%増)となりました。



インターベンション

主要取扱品目

- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー
- 心房中隔欠損閉鎖器具
- 動脈管開存閉鎖器具



バルーンカテーテルにおきましては、「LIFESPEAR(ライフスピーア)」シリーズが引き続き販売数量を伸ばし、売上高は前年同期比38.0%の増加となりました。また、心房中隔欠損閉鎖器具および動脈管開存閉鎖器具におきましては、認定施設数の増加などにより売上高は前年同期比24.2%の増加となりました。

以上の結果、インターベンションの売上高は18億6千万円(前年同期比22.7%増)となりました。



四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

●流動資産

現金及び預金が6億5千8百万円減少した一方で、受取手形及び売掛金が3億1千1百万円増加したこと等により、流動資産は前連結会計年度に比べ2億8千9百万円減少いたしました。

●固定資産

有形固定資産が2億5千9百万円、投資有価証券が4億2千1百万円、長期貸付金が3億6百万円増加したこと等により、固定資産は前連結会計年度に比べ10億8千2百万円増加いたしました。

●流動負債

短期借入金が7億円増加したこと等により、流動負債が前連結会計年度に比べ7億8千3百万円増加いたしました。

科 目	32期(当第2四半期) 平成23年9月30日現在	31期(前第2四半期) 平成22年9月30日現在	31期(前期) 平成23年3月31日現在
資産の部			
●流動資産	16,920	16,810	17,209
現金及び預金	2,011	2,373	2,669
受取手形及び売掛金	6,868	6,706	6,557
たな卸資産	6,638	6,426	6,702
その他の流動資産	1,402	1,304	1,280
●固定資産	7,582	5,861	6,500
有形固定資産	3,202	2,471	2,942
無形固定資産	41	56	49
投資その他の資産	4,338	3,333	3,508
資産合計	24,503	22,672	23,710
負債の部			
●流動負債	6,856	5,298	6,072
支払手形及び買掛金	1,551	1,515	1,542
短期借入金	2,870	1,970	2,170
その他の流動負債	2,434	1,813	2,360
固定負債	2,913	3,131	2,942
負債合計	9,770	8,430	9,015
純資産の部			
株主資本	14,781	14,246	14,692
資本金	2,115	2,115	2,115
資本剰余金	2,328	2,328	2,328
利益剰余金	10,689	10,154	10,600
自己株式	△351	△351	△351
その他の包括利益累計額	△47	△4	2
その他有価証券評価差額金	△47	△4	2
純資産合計	14,733	14,241	14,694
負債純資産合計	24,503	22,672	23,710

Consolidated Financial Statements

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

●営業利益

昨年4月の保険償還価格の引き下げ前に仕入れた原価の高い商品在庫が減少し、全般的に在庫単価が低減していることに加えて、収益性の高い自社ブランド商品の寄与などにより、売上総利益率が前年同期に比べ3.2ポイント改善いたしました。また、研究開発等の成長投資を行ったことなどにより、販売費及び一般管理費が前年同期に比べ、11.5%増加いたしました。以上の結果、営業利益は6億6千2百万円(前年同期比21.7%増)となりました。

●四半期純利益

AGA Medical社商品の独占販売契約終了に伴い、特別利益として薬事承認権譲渡益を2億4千4百万円計上した結果、四半期純利益は4億1千3百万円(前年同期比26.4%増)となりました。

科 目	32期(当第2四半期累計) 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	31期(前第2四半期累計) 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	31期(前期) 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで
売上高	11,573	10,985	22,361
売上原価	5,667	5,737	11,355
売上総利益	5,906	5,248	11,006
販売費及び一般管理費	5,243	4,703	10,033
●営業利益	662	544	973
営業外収益	30	92	135
営業外費用	47	12	26
経常利益	646	625	1,082
特別利益	244	113	617
特別損失	16	35	76
税金等調整前四半期(当期)純利益	875	702	1,623
法人税等	461	375	850
少数株主損益調整前四半期(当期)純利益	413	326	772
●四半期(当期)純利益	413	326	772

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

●財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入による収入が7億円あった一方で、前年同期に7億5千万円あった長期借入による収入がなかったこと、また、長期借入金の返済による支出が8千1百万円となったこと等により、前年同期に比べて1億7千万円収入が減少し、2億8千5百万円の収入となりました。

科 目	32期(当第2四半期累計) 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	31期(前第2四半期累計) 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	31期(前期) 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	492	80	1,273
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,436	△1,402	△2,443
●財務活動によるキャッシュ・フロー	285	456	600
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	—	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△658	△865	△569
現金及び現金同等物の期首残高	3,074	3,644	3,644
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	2,416	2,778	3,074

会社概要

(平成23年9月30日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結570名 単体502名
上場	大阪証券取引所 JASDAQ市場
連結子会社	JUNKEN MEDICAL株式会社

役員

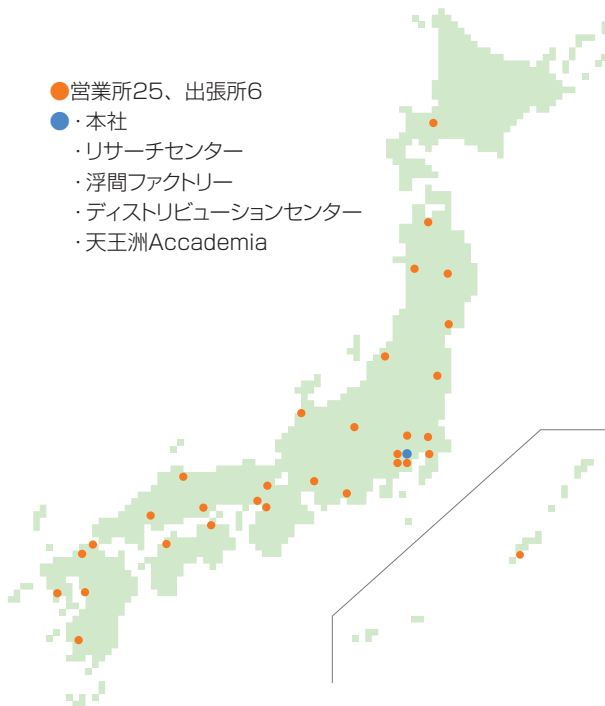
(平成23年9月30日現在)

代表取締役会長 増本 武司	常勤監査役 上田 勝啓
代表取締役社長 鈴木 啓介	監査役 塩谷 睦夫
専務取締役 鈴木 厚宏	監査役 中根 堅次郎
専務取締役 政次 浩二	監査役 苅米 裕
取締役 長濱 岳司	
取締役 黒沼 孝之	
取締役 高橋 省悟	

事業所

(平成23年10月1日現在)

- 営業所25、出張所6
- 本社
 - ・リサーチセンター
 - ・浮間ファクトリー
 - ・ディストリビューションセンター
 - ・天王洲Accademia



- 最新の会社情報およびIR情報は
当社ホームページをご覧ください。

<http://www.jll.co.jp>



投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は、
当社ホームページの投資家情報ページよりお願い
いたします。

株式の状況

(平成23年9月30日現在)

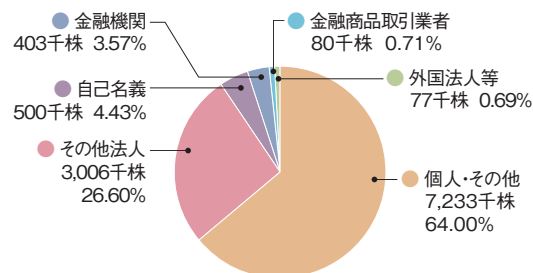
発行可能株式総数	43,300,000株
発行済株式の総数	11,302,497株
株主数	4,384名

大株主

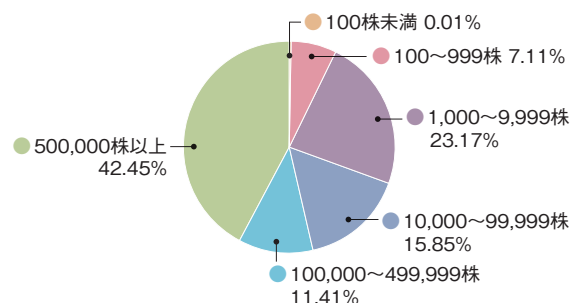
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	2,870	26.57
鈴木啓介	1,427	13.21
増本武司	457	4.24
日本ライフライン従業員持株会	158	1.47
上田勝啓	134	1.24
長濱岳司	116	1.07
加藤力蔵	113	1.05
朝日火災海上保険株式会社	110	1.02
日本生命保険相互会社	100	0.93
株式会社千葉銀行	100	0.93

(注) 1. 上位10名に記載していない500,473株を、自己株式として保有しております。
2. 持株比率は、自己株式(500,473株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布

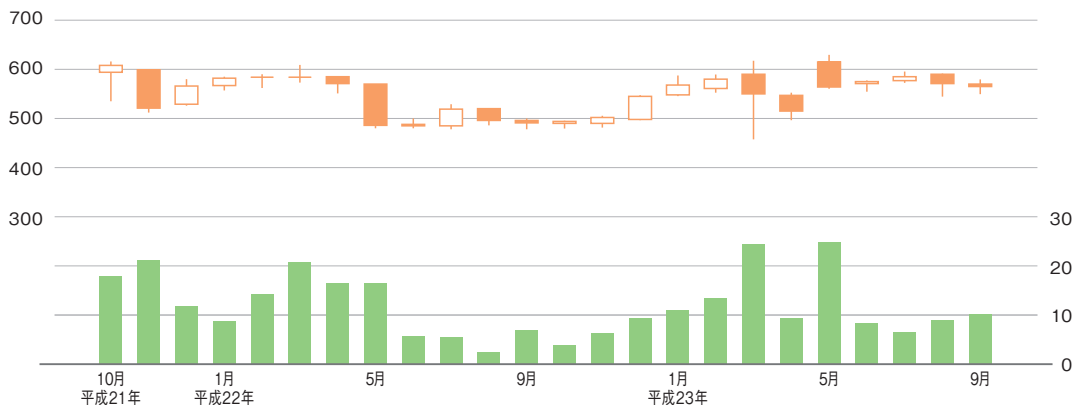


所有数別株式分布



株価・出来高の推移(月足)

■ 株価(単位:円) ■ 出来高(単位:万株)



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL http://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
〈お問合せ先〉	0120-232-711(通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	http://www.tr.mufg.jp/daikou/

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 1.住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等
- ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
 - ▶特別口座に記録された株式をお持ちの株主様
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 2.未受領の配当金について
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002
東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <http://www.jll.co.jp>